

正期産重症仮死児の予後とその周産期要因

(分担研究：ハイリスク児の調査に関する研究)

研究協力者：李 容桂
協同研究者：野間大路

要約：最近5年間における1分アプガー4点以下または5分アプガー6点以下の重症仮死を呈した53例を対象に、児の生命予後と神経学的予後およびその周産期要因について後方視的検討を行なった。乳児期までに死亡したのは重症の低酸素性虚血性脳症(HIE)の2例と先天異常の6例であった。先天異常8例を除く45例のうち、新生児死亡2例と重症の脳性麻痺(CP)9例の予後不良群11例および非CP群34例における周産期要因を比較検討したところ、予後不良に関連した要因は仮死蘇生の反応不良と重症HIEであった。また予後不良例のほとんどが胎児仮死を呈しており約半数でその直接的誘因が推測された。

見出し語：正期産重症仮死児、胎児仮死、低酸素性虚血性脳症、脳性麻痺

緒言：近年周産期医療の進歩とともに新生児死亡率は著しく低下しているが、脳性麻痺の発生は明らかに減少しているとは言えない。そこで正期産重症仮死児の現状を把握する目的で重症仮死児の予後とその周産期要因について後方視的検討を行なった。

研究方法：最近5年間(1989～1993年)に当院NICUに入院した在胎37週以上の正期産児で1分アプガー4点以下または5分アプガー6点以下の重症仮死を呈した53例を対象とした。対象53例について生命予後および神経学的予後について検討した。また先天異常8例を除く45例について、新生児死亡2例と6ヶ月以上の観察により重症の脳性麻痺(CP)と診断した9例を死亡+CP群(11例)、それ以外を非CP群(34例)として、両群における周産期要因を比較検討した。

研究成績：対象53例における先天異常の有無別の生命予後と神経学的予後を表1に示した。先天異常8例のうち5例が低出生体重児であった。乳児期までに死亡した症例は重症の低酸素性虚血性脳症(HIE)の2例と先天異常の6例であった。なお院内出生児における重症仮死発生率は0.2% (12/6,074)で、重症CPは1例のみであった。死亡+CP群と非CP群における周産期要因を表2に示した。分娩前の要因として死亡+CP群に関連したものは認められず、また分娩中の要因としても両群間で有意差を認めたものは無かった。しかし死亡+CP群11例のうち分娩中の胎児心拍モニタリング(CTG)が施行された9例はいずれも胎児仮死を呈しており、その直接的誘因である胎盤早期剥離、臍帯脱出、遷延分娩などの異常が5例に認められた。死亡+CP群ではより濃厚な蘇生および蘇生後の治療を要したが、5分アプガーは低値のまま11例中7例が重症HIEを呈した。

結論：先天異常に子宮内発育不全を合併した重症仮死児の生命予後は極めて悪く、また先天異常を除く重症仮死児の予後不良に関連した周産期要因は、仮死蘇生の反応不良および重症HIEであった。予後不良例の約半数に胎児仮死の直接的誘因が推測され、分娩中のCTG所見としては高度徐脈の持続、高度変動一過性徐脈が特徴的であった。しかし胎児仮死発症の誘因、時期および重症度などについてはまだ不明な点もあり、今後さらに検討が必要である。

表1 正期産重症仮死児の予後

症例の概要と予後	先天異常無し (n=45)	先天異常有り* (n=8)
性別と出生場所		
男/女	27/18	3/5
院内/院外	12/33	0/8
出生体重(g)		
～2,499	8	5
2,500～3,999	35	3
4,000～	2	0
生命予後		
新生児死亡	2	3
乳児死亡	0	3
神経学的予後		
重症CPあり	9	1
重症CPなし	34	1

* E-トリソミー1例、横隔膜ヘルニア2例、VATER連合2例
食道閉鎖症1例、多発奇形1例、神経芽細胞腫1例

表2 正期産重症仮死児の予後とその周産期要因

周産期要因	非CP群 (n=34)	死亡+CP群 (n=11)	p
分娩前			
高齢初産	2	0 (0)	n.s.
糖尿病	3	0 (0)	n.s.
妊娠中毒症	4	0 (0)	n.s.
母児間輸血症候群	1	0 (0)	n.s.
潜在性胎児仮死	4	2 (1)	n.s.
分娩中			
羊水混濁	14	7 (1)	n.s.
回旋異常、遷延分娩、肩甲難産	11	1 (1)	n.s.
分娩誘発、促進	11	6 (1)	n.s.
胎盤早期剥離	1	2 (0)	n.s.
臍帯脱出(骨盤位)	0	1 (0)	n.s.
臍帯巻絡	4	1 (0)	n.s.
胎児仮死(分娩中CTG)	22	9 (2)	n.s.
急速遂娩	19	8 (2)	n.s.
出生後			
1分アプガー<4	22	10 (2)	n.s.
5分アプガー<4	7	6 (2)	<0.05
気管内挿管蘇生	16	9 (2)	<0.05
胎便吸引症候群	14	6 (1)	n.s.
分娩麻痺	2	0 (0)	n.s.
低酸素性虚血性脳症(重症)	1	7 (2)	<0.001
低酸素性虚血性脳症(中等症)	14	4 (0)	n.s.
低酸素性虚血性脳症(軽症)	8	0 (0)	n.s.

(): 死亡例



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:最近 5 年間における 1 分アプガー 4 点以下または 5 分アプガー 6 点以下の重症仮死を呈した 53 例を対象に、児の生命予後と神経学的予後およびその周産期要因について後方視的検討を行なった。乳児期までに死亡したのは重症の低酸素性虚血性脳症(HIE)の 2 例と先天異常の 6 例であった。先天異常 8 例を除く 45 例のうち、新生児死亡 2 例と重症の脳性麻痺(CP)9 例の予後不良群 11 例および非 CP 群 34 例における周産期要因を比較検討したところ、予後不良に関連した要因は仮死蘇生の反応不良と重症 HIE であった。また予後不良例のほとんどが胎児仮死を呈しており約半数でその直接的誘因が推測された。